

令和7年度 第1回九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会 【議事概要】

1 日時及び場所

令和7年6月18日（水）13時30分～15時49分

九州森林管理局 2階 大会議室

2 議題

- （1）木材の需給動向等について
- （2）木材需給動向を踏まえた国有林材の供給調整について
- （3）その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

現時点での供給調整の必要は無いが、梅雨期を含め、今後における民有林材の出材状況や製材工場等の原木仕入れ状況、輸出向け原木の動向等を注視しつつ、計画的な供給に努めるべきである。

【主な意見】

- 合板業界の状況について、2025年（1月～4月）の生産量は87万m³、去年同期が81万m³であったので若干の増となっている。また、出荷量は、生産量と同じく87万m³で、昨年は80万m³であったことから、昨年よりも増えた状況となっている。

この出荷量の増加は、3月の駆け込み需要により、4月までに製品が流れたことが要因であると思っている。ただ、全国的にその反動が5月の末から影響して、今月においてはものすごく荒んだ状況になっている。

合板業界としては、需要に見合った生産量を行っているが、採算性の改善が急務となっている状況である。

当社の状況は、全国と同じように出荷量に見合った生産量で稼働させているが、稼働日数4.5日（週間）とギリギリの状況で生産を続けているところである。

原木丸太の購入については、スギ・ヒノキともに工場への入荷は順調であり、市場においては若干少ないと感じられることもあるが、今後の雨の状況によっては出材が一気に少なくなる可能性もあり得るので、その辺も考慮して国有林材の供給をお願いしたい。

- 当社のチップの原木集荷ベースでは、在庫の余剰感はないとの見立てをしている。九州内で集荷している製紙用チップは、4～5年前は年間におおよそ45万t程度の集荷だったが、昨年度は37万7千tとかなり落ち込んでいる。これは、当社の切削工場の能力が落ちていたということではなく、バイオマスとの競合で、現在当社の生産は製紙用チップよりもバイオマス用に切削している量が遥かに大きくなっていることによるもの。

価格的には、製紙用とバイオマス向けの競争が非常に激しくて、中々落ち着いたところがない。

丸太の輸出について、中国のスギの動向は、主に上海地区の港頭在庫はおおむね18万m³から20万m³となっている。旧正月前はおおむね25万m³だったが、月間の消費量が約15万m³であるということから、決して大きな在庫になっている状況ではない。

輸出丸太の価格は、若干の弱含みではあるが、USドルで5ドルから7ドルの値下げで収まっているとのことで大きな下落にはなっていない。径級18cm以上は同じような単価で推移していると聞いている。特に18cm以上の中径木の需要は、今後、関税の影響がどのように動くか不透明であり、これについては関税次第である。

- この3ヶ月は、建築基準法改正に伴う駆け込み、トランプ関税に対応する駆け込みと、外的要因に振り回された時期であった。駆け込みということは先食いであって、この反動が来ることは避けられない。

建築資材全てのコストアップ対策のため、住宅面積を小さくしたり、二階屋から平屋にしたりとする動きは引き続きあっており、木材需要としては厳しい状態であったと感じるところ。この駆け込みの反動減を心配されているが、その後は通常ベースに戻るかという点が非常に危惧されている。

トランプ関税政策による様子見が建設業界だけではなく全ての業種であって、最近の運送会社の話では荷動きが悪くトラックが余り気味だという話を聞く。

木材需要が減るのは仕方のないことではあるが、全体の量が減っても国産材の量は少なくとも現状維持を保つ努力をしないといけないし、輸出も頑張らないといけないが、最近では、それこそ駆け込みの影響でコンテナは中国とアメリカに取られてしまい日本にこない。仮に注文があっても運べない現状になっている。

このような状況下において、我々製材業として何か努力をしなければならないが、木材需要が減るなかで国産材シェアを輸入材から変えていく努力が重要である。

そのためには安定した取引はより重要となることから、国有林からの出材については従来どおり安定した価格で量を供給していただきたい。

- 4月前半ぐらいまでは原木出材も順調で製品の動きもまずまずであったが、4号特例の見直しで手続き等が滞った影響により、一般製品の動きでは4月以降は低迷している。

トランプ関税の影響で中国向けC材価格が急落し、1,500円から2,000円は下がっており心配ではあるが、バイオマスの競合もあることから、ここが底値なのではと思う。

需要創出について、国産材のシェア獲得には大手ゼネコンやハウスメーカー、設計事務所等に対して、設計段階から国産材への変更を提案していくことが大事。

丸太高の製品安と言われる向きもあるが、原木安定製品安定のコスト高という表現が実態ではないか。製材工場が人手不足とコスト高を解消しない限り、需要が増えても対応はうまくでき出来ないのではないかなと思う。

製品価格を安定し、原木価格も安定することにより出材も順調になることが重要。原木は不足していないが不足気味になっていると思われることから、国有林の供給は現状どおりか少し多めに供給して欲しい。

- 当社の１月から５月までの入荷状況について、順調に入荷しているが、一部の営業所で直送が主流になってきたことから、目標に対して年々落ち込んでいる状況にある。

市況動向では、当社のシステム販売に関してヒノキは土台取り直材、小曲材は価格を維持している。一方、入札分ではヒノキ土台取り直材、小曲材ともに１月から５月の間で約３,０００円程度の値下がり。スギは集成材工場との協定があることから、価格は据え置き。

流通状況では、住宅着工減少による影響は避けられないが、当社と各方面での協定による供給があることから需要自体はそれほど落ちてない。非住宅分野での国産材の需要は日に日に高まっている実感もある。ＪＡＳ指定やＳＧＥＣ認証材の指定注文も若干増えてきたことから、安定した供給体制の構築を進めている。

国産材ツーバイフォーにおいても着工数自体は厳しい状況に陥っているが、比率をＳＰＦ材から国産材に変えていくという要望は日に日に高まっている。

一方で米中貿易摩擦に影響されたのか、アメリカ向けに国産材のスギ２×４の輸出に関する問い合わせも入ってきており、トライアルを開始した状況である。

国有林材の供給調整については、梅雨時期になり、虫害もあって総じて丸太不足感があることから、安定的な供給のためにも、今後とも引き続き安定した供給をお願いしたい。

- 丸太高の製品安について、本来なら丸太高であれば原木出材量が増えるのではと思うが、民有林では仕入れも出荷も変わらず淡々とやっているところ。民有林では、伐採できる山林はあっても森林所有者の不在などによる集約化の問題もあり、中々出材は増えてこない現状である。

また、他の産業も含め原油も機械もコストが上昇。重機は中古が無い。あっても中型重機で４００～５００万円も上がっているなどにより出材コストが高騰しているため、丸太高という表現は現状から見て合わない。

原木出材については、宮崎の市場でも前年同期比で約１割は少ない。生産コストも上昇しているが、減少した一番の要因は伐採現場が奥地化になってきたこと。運送でもコストは上がるばかりである。

今後について、中国の在庫も余剰感はなく、トランプ政権の状況にもよるが、夏頃には木材需要も旺盛に動き始める可能性はあるとのこと。４号特例の縮小による確認申請等の手続きの遅延により着工が遅れているが、秋以降には住宅着工の動きもある可能性が高いとの意見がある。

これらの状況を踏まえ、国有林に関しては計画的に情報が出されるため、非常に重要視される。県などから前もって情報を出して計画的に事業実行できる体制ができれば、民有林からの出材は増えてくると思う。

国有林材の供給調整の必要はない。引き続き安定的な素材生産の事業実行を行ってもらいたい。

- 市場の昨年7月から今年5月末まで動向について、上半期では大雨被害や住宅関連製材品の低迷等から取扱量は前年度比マイナスであったが、今年の1月から3月期の補助事業関連による出材量の影響もあり、取扱量は5月末累計では前年比101.1%で、取扱高は前年比+900円の平均単価で維持し、前年比109.6%の増額となった。

6月5日の市売りでは、スギ・ヒノキともに4m材を中心に応札が多く、前回の5月20日の市売りより僅かに値上がりの状況であった。

輸出状況では、アメリカ関税政策に対する情報不足や不透明感から今後の中国側の需要動向が全く分からない中、港着値で12,000円前後から11,500円前後の状況である。

国有林材の供給調整については、相場及び関税動向も含めた需給動向を十分に踏まえ、市況の安定化のために計画的な供給をお願いしたい。

- 各プレカット工場の生産量について、各商社・大手問屋・資材メーカー等に聞き込みしたところ、3月の駆け込み需要により4月は対前年同期比で110%ぐらいにはなったが、2024年4月が対前年同期比で90%であったので、一昨年レベルぐらいの受注量になっている。5月が対前年同期比95%で、6月も対前年同期比95%とかなり悪い状況にある。木材の使用量も対前年比97%となっており3%減っている。内訳は一昨年が国産材83%、輸入材17%、今年は国産材80%、輸入材20%となっており、輸入材が若干であるが3%ぐらい多くなっている状況である。

7月はやっと建築確認申請の審査が下りてくるようになった。当社の7月の受注予定は、今のところ是对前年同期比108%と少し増えてきたところである。

6月までの状況は、4号特例の縮小による建築確認申請の遅延の影響によるものか、本当に仕事が少ないのか、悩むところである。

各プレカット工場も、受注が激減しているなか競合が激化。心が折れているプレカット工場が数社あるということも聞いている。今後、倒産するプレカット工場は増えてくるのではと心配している。

銀行の話では、この木材業界に限らず景気が悪くなってきているとのこと。

丸太は売れているが製品は売れないということも市場関係者から聞くと。この長雨によって丸太が少なくなったために製品が高くなるという事態は避けたいため、国有林材の供給調整については現状維持でお願いしたい。